

柴北川プロジェクト通信 25号

平成24年9月8日(土)～9日(日)

さくらソバの種まき作業が行われました。

昨年に引き続き「さくらソバ」の種まき作業の手伝いを行いました。

残暑厳しい秋空の中、共助研の福岡組（木寺リーダー、吉田さん、森脇）の3人はお昼の12時に博多駅筑紫口のマツダレンタカーを出発。緑の多い大分道を走り、午後3時に目的地であるソバ畑のある「畑ケ川」の高台に到着、今年も晴天に恵まれ景色のよい高台での種まき作業です。しばらくすると波木事務局長、玉田さん、濱田さん、波多野さんがそれぞれ自家用車で到着。本日共助研からのお手伝いは全員で7名となりました。

<今回のスケジュール>

9月8日(土) 1日目

12:00 出発

15:00 現地集合

15:00～17:00 ソバの種まき

17:30 1日目解散

18:30 懇親会

9月9日(日) 2日目

9:00 ホテル出発

12:00 福岡組解散



秋空の下の高台のソバ畑

1. 準備作業

風光明媚な畑ケ川の高台に到着するとソバ班長の若杉さんがトラクターに乗りこみザクザクと耕していました。若杉さんの腕が良いのか見る見るうちに約2反（2000㎡）が耕されていきました。一見秋空の晴れ渡った天気に見えますが、昨日は土砂降りでした。そのせいで畑を耕すことができずに到着した時には若杉さん一人で準備作業をしておられました。いつもながら準備作業は柴北川を愛する会の方にお願いし共助研はおいしいところ取りで申し訳ありません。耕しているうちに柴北川を愛する会と共助研のメンバーが三々五々集まってきました。総勢15人くらいで種まき開始です。



トラクターで耕す若杉班長

開会に当たり穴見会長のあいさつを頂いたあと若杉班長による播種の扱い方や種まきの間隔などの説明を受けました。若杉さんは今年で3年目2年間の経験を生かして今年はさらにきれいな花が期待できそうです。今年のソバの種は「高嶺ルビー2011」で表示にはオーストラリア産とあり（外来種？）一より鮮やかな赤に進化しました。一とコメントが付いていました。昨年より濃いピンクということ

でした。この種を2箱（2kg）播く計画です。1箱1万円と聞きその貴重さに感動しました。手押し播種機に1回300cc程度入れ畑を横方向約30m往復していきます。昨年の経験から1列の間隔を80cmから60cmに変更しより密になるように播いていきます。60cm間隔に糸が張られ、さあスタートです。



説明する若杉班長



立派な箱に入ってる「高嶺ルビー2011」

2. 種まき開始

木寺リーダーを皮切りに種まきが始まりました。手押し播種機が1台ですのでリレー形式に往復していきます。1往復すると約60m播いたことになります。はじめの往路は元気よく走りだしているもの畑がやわらかい部分や草の根がある部分では力が要りなかなか進みません。復路ではかなり息が切れ2〜3往復するとふらふらです。さらに「曲がっているぞ、遅いぞ」など応援ではなくヤジが飛び交う始末はじめのうちは順番待ちだったのが次第に指名制となってきました。それでも次々と交替し播種機は休みなく働き続けました。運動会のようなノリでバトンタッチを続け最終ランナーの波多野さんがゴールしたのは約1時間後でした。



トッランナーの木寺リーダー



玉田さん



吉田さん（足に注目！）



波木さん



濱田さん



波多野さん

きれいな花が咲くのを祈りながら、次の畑にみんなで移動。100mくらい離れた場所に同じ面積の畑がもう1枚ありました。前半の畑では正確に距離を測って糸を張り手押し播種機で丁寧に播いたことに比べると、後半の畑では昨年収穫した種を帽子に入れ手で量も間隔も適当にバラバラと播いていきました。(なんとアバウト) 広い畑も手抜き種まきにより 30分程度で終了。奥の方はほんとは播けたらどうか心配になってくるとともにまだらに咲くだろうと確信しました。その後、お茶を飲みながら終了ミーティングを行い、今後の行事予定などの話し合いを行いました。午後5時過ぎに一旦解散しました。



アバウトな種まき



終了ミーティング

3. 松巖寺田んぼの様子

ホテルに向かう途中、共助研のメンバーで松巖寺田んぼの稲の育成状況を見に行きました。去る6月21日植えられた稲が、残暑の日差しの中、青々と育っていました。周りや田の中の雑草も刈られ、きれいな水田風景でした。いつも管理して頂いている安藤班長をはじめとして愛する会の方に感謝です。10月の収穫祭が待ち遠しいです。



青々とした松巖寺田んぼ

4. 暑気払い懇親会

用事のある濱田さん、波多野さんは帰宅し、懇親会出席者はいつものホテル豊洋で休憩した後、午後6時過ぎに渡邊事務局長のお迎えにより黒松生活改善センターへ行きました。冷えたビールで乾杯。労働のあとのビールは格別です。(もしかしたらこの瞬間のために働いているのでは。) 三浦さんのところで採れたカボスを料理に振りかけ、秋の香りを楽しみながら今日の反省や長谷地区の特産品などについて話しがはずみ楽しいひと時を過ごしました。



労働後の懇親会

9時過ぎに中締めを行い解散。共助研メンバーをホテルに送るためにお酒を我慢していただいた渡邊事務局長にホテルに送っていただきました。本当にありがとうございました。福岡にいらっしゃる際にはぜひ〇〇で飲みましょう。

ホテルに到着後、疲れた体をものともせず、駅近くの居酒屋で2次会を行いました。吉田さんから改めて三浦さんのカボスの価値についての熱弁を聞きながら長谷地区の今後について語り合いました。

5. 2日目は帰路のみ

翌10日は「愛する会」の皆さんは道路の草刈りで朝から働いているなか、ホテルに泊まった共助研メンバーは9時にホテルロビーに集合。来年はぜひ草刈り機を手配しお手伝いをしなければと思いつつ一路福岡へ帰宅しました。

(文責：森脇)